

【公開版】

日本原燃株式会社	
資料番号	濃縮個別 37 R0
提出年月日	令和 3 年 9 月 17 日

加工施設の火災防護に係る補足説明資料

目 次

1. 概要 1
2. 申請対象と技術基準規則の関係 1
3. 設工認申請書添付書類における変更内容に係る補足説明事項 1
4. 既認可から変更がない設計について 1

添付 1 申請対象設備の「技術基準規則 第 11 条 火災等による損傷の防止」への適合要
否及び既認可からの変更について

添付 2 変更内容に係る補足説明事項について

添付 3 既認可の申請内容

1. 概要

本資料は、第5回申請の【加工施設の火災防護に関する説明書】（以下「説明書」という。）において説明した事項に関して、申請内容の妥当性、記載内容の根拠等について説明するものである。

2. 申請対象と技術基準規則の関係

第5回申請において説明している内容は、「技術基準規則 第11条 火災等による損傷の防止 第1項及び第3項」に基づく説明である。

本資料では、第1項に係る感知器（均質槽防護カバー内）、温度センサ、遠隔消火設備、第3項に係る設備・機器及び電気・計装ケーブルの火災発生防止対策及び事業変更許可に基づく内部火災影響評価について説明する。

上記以外の設備及び機器の本項における要求事項の変更については、既認可にて当該事項に対する設計を申請済みであるとともに、それらに係る設計について変更はないため、今回の申請において変更は行わない。

今回申請対象設備の「技術基準規則 第11条 火災等による損傷の防止」への適合要否、適合内容の既認可からの変更の有無等を添付1に示す。

3. 設工認申請書添付書類における変更内容に係る補足説明事項

説明書での申請内容に関する補足説明を添付2に示す。

4. 既認可から変更がない設計について

「技術基準規則 第11条 火災等による損傷の防止 第1項及び第3項」の要求事項及び設計に変更がないとしたものについて、既認可の申請内容を添付3に示す。

添付 1

申請対象設備の「技術基準規則 第 11 条 火災等による損傷の防止」への適合要否及び既認可からの変更について

設工認申請対象機器の技術基準への適合性に係る整理

【第5回申請】

番号	施設区分	設備区分	機器名称	設置場所	数量	単位	申請回	変更区分	DB区分	耐震設計	備考
76	濃縮施設	IF6処理設備	回収側槽内圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロック (2号一般バージ系コールドトラップ)	-	2	式	5	新設	非安全	第3類	2号一般バージ系コールドトラップに係るインターロック 検出器 ・原料シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (原料シリンダ側入口圧力計) (番号96) ・中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計) (番号90)
79	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号均質槽	2号発回均質槽	6	基	5	既設	非安全	1G	
80	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号製品シリンダ槽 (加熱器なし)	2号発回均質槽	5	基	5	既設	非安全	1G	
81	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号製品シリンダ槽 (加熱器あり)	2号発回均質槽	1	基	5	既設	非安全	1G	
82	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号原料シリンダ槽	2号発回均質槽	1	基	5	既設	非安全	1G	
83	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号サンプル小分け装置	2号発回均質槽	1	基	5	既設	非安全	1G	
84	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号工程用モータ	2号発回均質槽	2	基	5	既設	非安全	1G	
85	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号局所排気装置	中央操作棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
86	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	中間製品容器	1号発回均質槽 2号発回均質槽	45 本	5	既設	非安全	-	-	
87	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	主要配管 (均質・ブレンディング系)	2号発回均質槽	-	式	5	既設	非安全	1G	
88	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	防護カバー	2号発回均質槽	-	式	5	新設	非安全	1G	
89	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	均質槽内圧力計	2号発回均質槽	6	台	5	改造	非安全	第3類	
90	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計)	2号発回均質槽	12	台	5	既設	非安全	第3類	
91	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	均質槽内温度計	2号発回均質槽	6	台	5	既設	非安全	第3類	
92	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	均質槽シリンダ重量計	2号発回均質槽	6	台	5	既設	非安全	第3類	
93	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	製品シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (製品シリンダ槽入口圧力計)	2号発回均質槽	6	台	5	既設	非安全	第3類	
94	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	製品シリンダ槽 (F) 内温度計	2号発回均質槽	1	台	5	既設	非安全	第3類	
95	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	製品シリンダ槽シリンダ重量計	2号発回均質槽	6	台	5	既設	非安全	第3類	
96	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	原料シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (原料シリンダ槽入口圧力計)	2号発回均質槽	1	台	5	既設	非安全	第3類	
97	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	原料シリンダ槽内温度計	2号発回均質槽	1	台	5	既設	非安全	第3類	
98	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	原料シリンダ槽シリンダ重量計	2号発回均質槽	1	台	5	既設	非安全	第3類	
99	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	サンプルシリンダ内圧力計	2号発回均質槽	1	台	5	既設	非安全	第3類	
100	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	加熱槽温度計	2号発回均質槽	1	台	5	既設	非安全	第3類	
101	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	工程用モータIF6濃度高によるIF6漏えい拡大防止のインターロック (2号均質槽)	-	1	式	5	既設	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・2号工程用モータ (番号84) ※ ※当該検出器については、番号11R、12Zのインターロックと共用
102	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	減圧確保に関する均質槽加熱停止インターロック (2号均質槽)	-	1	式	5	改造	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・減圧槽内圧力計 (番号133) ・減圧槽入口配管温度計 (番号134)
103	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号局所排気機2台停止による加熱停止のインターロック (2号均質槽)	-	-	式	5	改造	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・2号局所排気機 (番号211)
104	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	均質槽槽内圧力異常高による運転停止のインターロック (2号均質槽)	-	6	式	5	改造	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・均質槽内圧力計 (番号89)
105	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロック (2号均質槽)	-	6	式	5	既設	非安全	第3類	検出器 ・中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計) (番号90) ・均質槽内温度計 (番号91)
106	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	IF6シリンダ類交換時の誤操作防止のインターロック (2号均質槽)	-	-	式	5	既設	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・2号均質槽 (番号79)
107	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	地震発生時のIF6漏えい防止インターロック (2号均質槽)	-	4	組	5	新設	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・地震計 (番号11、12) ※ ※当該検出器については、番号14、23等のインターロックと共用

既認可		今回申請										技術基準への適合性に関する変更有無の考え方 【既認可】欄 ○：適合性確認を実施するもの -：条文要求を受けないもの 【今回申請】欄 ○：適合性確認を実施するもの (要求事項、設計内容に変更があり、変更内容に応じた取組を実施するもの) △：適合性について既認可から変更がないもの (要求事項、設計内容に変更がないため、今回の申請で変更は行わないもの) -：条文要求を受けないもの			
火災等による損傷の防止		火災等による損傷の防止													
第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項	第11条第6項	第11条第7項	第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項		第11条第6項	第11条第7項	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するための適合説明の対象とする。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	IF6を内包する機器であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	IF6を内包する機器ではないため、安全機能喪失時の影響の程度により対象外。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新たに規制対象となる既設の設備。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	同上
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	同上
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するための適合説明の対象とする。

設工認申請対象機器の技術基準への適合性に係る整理

【第5回申請】

番号	施設区分	設備区分	機器名称	設置場所	数量	単位	申請回	変更区分	D/B区分	前撰設計	備考
108	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	重量異常高による過充填防止のインターロック (2号均質槽)	-	6	式	5	既設	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・均質槽シリンダ重量計 (番号92)
109	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	回収槽槽内圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロック (2号均質槽)	-	12	式	5	新設	非安全	第3類	2号均質槽に係るインターロック 検出器 ・製品シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (製品シリンダ槽入口圧力計) (番号93) ・中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計) (番号90)
110	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロック (2号製品シリンダ槽)	-	1	式	5	既設	非安全	第3類	2号製品シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・製品シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (製品シリンダ槽入口圧力計) (番号93) ・製品シリンダ槽 (F) 内温度計 (番号94)
111	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	地震発生時の加熱停止のインターロック (2号製品シリンダ槽)	-	4	組	5	新設	非安全	第3類	2号製品シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・地震計 (番号11, 12) ※ ※当該検出器については、番号14, 23等のインターロックと共用
112	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	重量異常高による過充填防止のインターロック (2号製品シリンダ槽)	-	6	式	5	既設	非安全	第3類	2号製品シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・製品シリンダ槽シリンダ重量計 (番号92)
113	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	回収槽槽内圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロック (2号製品シリンダ槽)	-	3	式	5	新設	非安全	第3類	2号製品シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計) (番号90) ・製品シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (製品シリンダ槽入口圧力計) (番号93)
114	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロック (2号原料シリンダ槽)	-	1	式	5	既設	非安全	第3類	2号原料シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・原料シリンダ/製品シリンダ内圧力計 (原料シリンダ槽入口圧力計) (番号90) ・原料シリンダ槽内温度計 (番号97)
115	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	地震発生時の加熱停止のインターロック (2号原料シリンダ槽)	-	4	組	5	新設	非安全	第3類	2号原料シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・地震計 (番号11, 12) ※ ※当該検出器については、番号14, 23等のインターロックと共用
116	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	重量異常高による過充填防止のインターロック (2号原料シリンダ槽)	-	1	式	5	既設	非安全	第3類	2号原料シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・原料シリンダ槽シリンダ重量計 (番号90)
117	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	回収槽槽内圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロック (2号原料シリンダ槽)	-	1	式	5	新設	非安全	第3類	2号原料シリンダ槽に係るインターロック 検出器 ・中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計) (番号90)
118	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	工程用モックH濃度高によるIF6漏えい拡大防止のインターロック (2号サンプル小分け装置)	-	1	式	5	既設	非安全	第3類	2号サンプル小分け装置に係るインターロック 検出器 ・2号工程用モック (番号84) ※ ※当該検出器については、番号101, 122のインターロックと共用
119	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号屑所排風機2台停止による加熱停止のインターロック (2号サンプル小分け装置)	-	1	式	5	改造	非安全	第3類	2号サンプル小分け装置に係るインターロック 検出器 ・2号屑所排風機 (番号211)
120	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	サンプルシリンダ圧力異常高又は小分け装置温度異常高による加熱停止のインターロック (2号サンプル小分け装置)	-	1	式	5	既設	非安全	第3類	検出器 ・サンプルシリンダ内圧力計 (番号90) ・加熱槽温度計 (番号100)

既認可		今回申請							技術基準への適合性に関する変更有無の考え方											
火災等による損傷の防止		火災等による損傷の防止							【既認可】 欄 ○: 適合性確認を実施するもの -: 条文要求を受けないもの											
第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項	第11条第6項	第11条第7項	第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項	第11条第6項	第11条第7項	【今回申請】 欄 ○: 適合性確認を実施するもの (要求事項、設計内容に変更あり、変更内容に同じ初期値を実施するもの) △: 適合性について既認可から変更がないもの (要求事項、設計内容に変更がないため、今回の申請で変更は行わないもの) -: 条文要求を受けないもの						
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。						
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するため適合説明の対象とする。						
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。						
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するため適合説明の対象とする。						
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。						
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。						
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するため適合説明の対象とする。						
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。						
-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新たに規制対象となる既設の設備。						
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IF6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。						

設工認申請対象機器の技術基準への適合性に係る整理

【第5回申請】

番号	施設区分	設備区分	機器名称	設置場所	数量	単位	申請回	変更区分	D/B区分	耐震設計	備考
121	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	地震発生時の加熱停止のインターロック (2号サンプル小分け装置)	-	4	組	5	新設	非安置	第3類	2号サンプル小分け装置に係るインターロック 検出器・地震計 (番号11, 12) ※ ※当該検出器については、番号14, 23等のインターロックと共用
122	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	工程用モータ駆動速度高によるIP6漏えい拡大防止のインターロック (2号局所排気装置)	-	1	式	5	改造	非安置	第3類	2号局所排気装置に係るインターロック 検出器・5号工程用モータ (番号84) ※ ※当該検出器については、番号101, 118のインターロックと共用
123	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	地震発生時のIP6漏えい防止インターロック (2号局所排気装置)	-	4	組	5	新設	非安置	第3類	2号局所排気装置に係るインターロック 検出器・地震計 (番号11, 12) ※ ※当該検出器については、番号14, 23等のインターロックと共用
124	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号均質バージ系コールドトラップ	2号発回均質機	2	基	5	既設	非安置	1G	
125	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号減圧槽	2号発回均質機	1	基	5	既設	非安置	1G	
126	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号均質バージ系ケミカルトラップ (NaF)	2号発回均質機	4	基	5	既設	非安置	1G	
127	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号均質バージ系ケミカルトラップ (Al ₂ O ₃)	2号発回均質機	4	基	5	既設	非安置	第1類	
128	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号均質バージ系ロータリポンプ	2号発回均質機	2	基	5	既設	非安置	1G	
129	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	2号均質バージ系ロータリポンプ	2号発回均質機	4	基	5	既設	非安置	第3類	
130	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	主要配管 (均質バージ系)	2号発回均質機	-	式	5	既設	非安置	1G	
131	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	均質バージ系コールドトラップ内圧力計	2号発回均質機	2	台	5	既設	非安置	第3類	
132	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	均質バージ系コールドトラップ内温度計	2号発回均質機	2	台	5	既設	非安置	第3類	
133	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	減圧槽内圧力計	2号発回均質機	1	台	5	改造	非安置	第3類	
134	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	減圧槽入口配管温度計	2号発回均質機	1	台	5	改造	非安置	第3類	
135	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロック (2号均質バージ系コールドトラップ)	-	2	式	5	既設	非安置	第3類	検出器・均質バージ系コールドトラップ内圧力計 (番号111)・均質バージ系コールドトラップ内温度計 (番号112)
136	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	地震発生時の加熱停止のインターロック (2号均質バージ系コールドトラップ)	-	4	組	5	新設	非安置	第3類	検出器・地震計 (番号11, 12) ※ ※当該検出器については、番号14, 23等のインターロックと共用
137	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	回収側槽内圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロック (2号均質バージ系コールドトラップ)	-	1	式	5	新設	非安置	第3類	2号均質バージ系コールドトラップに係るインターロック 検出器・中間製品容器内圧力計 (均質槽入口圧力計) (番号90)
138	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	ロータリポンプ停止に伴う入口弁開のインターロック (2号均質バージ系ロータリポンプ)	-	4	式	5	既設	非安置	第3類	2号均質バージ系ロータリポンプに係るインターロック 検出器・2号均質バージ系ロータリポンプ (番号129)
139	濃縮施設	均質・ブレンディング設備	カバー、シート	2号発回均質機	-	式	5	新設	非安置	-	
143	核燃料物質の貯蔵施設	貯蔵設備	ANSI又はISO規格 487	Aウラン貯蔵庫 Bウラン貯蔵庫 ウラン貯蔵・廃棄物庫	-	式	5	既設	非安置	-	
144	核燃料物質の貯蔵施設	貯蔵設備	ANSI又はISO規格 308	Aウラン貯蔵庫 Bウラン貯蔵庫	-	式	5	改造	非安置	-	
145	核燃料物質の貯蔵施設	貯蔵設備	付着ウラン回収器	2号発回均質機 Aウラン貯蔵庫 Bウラン貯蔵庫	21	本	5	改造	非安置	-	
146	核燃料物質の貯蔵施設	貯蔵設備	原料シリンダ置台 (充填)	Aウラン貯蔵庫	228	組	5	既設	非安置	第1類	

既認可		今回申請										【技術基準への適合性に関する変更有無の考え方】 【既認可】欄 ○：適合性確認を実施するもの -：条文要求を受けないもの 【今回申請】欄 ○：適合性確認を実施するもの (要求事項、設計内容に変更あり、変更内容に応じた取組を実施するもの) △：適合性について既認可から変更がないもの (要求事項、設計内容に変更がないが、今回の申請で変更は行わないもの) -：条文要求を受けないもの		
火災等による損傷の防止		火災等による損傷の防止												
第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項	第11条第6項	第11条第7項	第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項		第11条第6項	第11条第7項
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	IP6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するための適合説明の対象とする。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	IP6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新たに規制対象となる既設の設備。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	IP6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するための適合説明の対象とする。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	同上
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器と一体でパワングリを構成する機器であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	IP6を内包する機器ではないため、安全機能喪失時の影響の程度により対象とする。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	同上
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	同上
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。既認可から技術基準要求事項及び設計内容に変更はない。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	IP6の閉じ込めに係るインターロックであり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。新設するための適合説明の対象とする。
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器ではないため、安全機能喪失時の影響の程度により対象とする。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	同上
-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	IP6を内包する機器を設置する箇所であり、安全機能 (閉じ込め) 喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。

設工認申請対象機器の技術基準への適合性に係る整理

【第5回申請】

番号	施設区分	設備区分	機器名称	設置場所	数量	単位	申請回	変更区分	D/B区分	耐震設計	備考
265	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	漏えい防止機能（廃水液面異常高警報）（第1廃水調整ピット）	-	2	式	5	既設	非安全	第3類	第1廃水調整ピットに係るインターロック 検出器・第1廃水調整ピット液位計（番号265）
266	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	受入れ停止による漏えい防止機能（汚泥タンク）	-	-	式	5	既設	非安全	第3類	汚泥タンクに係るインターロック 検出器・汚泥タンク液位計（番号266）
267	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	手洗廃水ピット	中央操作棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
268	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	第2廃水調整ピット	中央操作棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
269	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	管理廃水処理第2活性炭吸着塔	中央操作棟	2	基	5	既設	非安全	第3類	
270	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	第2処理水ピット	中央操作棟	2	基	5	既設	非安全	第3類	
271	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	吸着塔送水ポンプ	中央操作棟	2	基	5	既設	非安全	第3類	
272	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	第2処理水ポンプ	中央操作棟	2	基	5	既設	非安全	第3類	
273	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	2号発回均質廃水ピット1	2号発回均質棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
274	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	2号発回均質廃水ピット2	2号発回均質棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
275	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	2号発回均質廃水ピット3	2号発回均質棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
276	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	2号発回均質廃水ピット4	2号発回均質棟	1	基	5	既設	非安全	第3類	
277	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	主要放射性廃水配管（非放射性廃水処理系）	中央操作棟 渡り廊下 2号発回均質棟	-	式	5	既設	非安全	第3類	
278	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	ホットランドリー室廃水タンク	中央操作棟	1	基	5	撤去	-	-	
279	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	ホットランドリー室廃水送水ポンプ	中央操作棟	1	基	5	撤去	-	-	
280	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	室（ホットランドリー室）	中央操作棟	1	区画	5	撤去	-	-	
281	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	ホットランドリー廃水配管	中央操作棟	-	式	5	撤去	-	-	
282	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	液体廃棄物保管廃水区画	中央操作棟	1	区画	5	既設	非安全	-	
283	放射性廃棄物の廃棄施設	液体廃棄物の廃棄設備	液体廃棄物保管廃水区画（IF,ポンベ置台）	2号発回均質棟	58	基	5	既設	非安全	-	
284	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	主要配管（IF,発生・供給系）	中央操作棟 1号発回均質棟 渡り廊下 2号発回均質棟	-	式	5	撤去	-	-	
285	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	主要配管（回収系）	中央操作棟 1号発回均質棟 渡り廊下 2号発回均質棟	-	式	5	撤去	-	-	
286	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	固体廃棄物保管廃水区画（Aクラン濃縮廃棄物室）	Aクラン濃縮廃棄物棟	1	区画	5	既設	非安全	-	
287	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	固体廃棄物保管廃水区画（Bクラン濃縮廃棄物室）	クラン貯蔵・廃棄物庫	1	区画	5	既設	非安全	-	
288	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	固体廃棄物保管廃水区画（Cクラン濃縮廃棄物室）	使用済速心機保管建屋	1	区画	5	既設	非安全	-	
289	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	固体廃棄物保管廃水区画（Dクラン濃縮廃棄物室）	使用済速心機保管建屋	1	区画	5	既設	非安全	-	
290	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	固体廃棄物保管廃水区画（使用済速心機保管室）	使用済速心機保管建屋	1	区画	5	既設	非安全	-	
291	放射性廃棄物の廃棄施設	固体廃棄物の廃棄設備	固体廃棄物保管廃水区画（Cクラン貯蔵室（使用済速心機保管エリア））	クラン貯蔵・廃棄物庫	1	区画	5	撤去	-	-	
303	放射線管理施設	放射線監視・測定設備	中センサ	中央操作棟 2号発回均質棟 1号発回均質棟 2号分クラー一基棟 Aクラン貯蔵庫 Bクラン貯蔵庫 クラン貯蔵・廃棄物庫	30	台	5	新設	非安全	1G, 第2類	
304	放射線管理施設	放射線監視・測定設備	排気用モニタA	中央操作棟	1	台	5	改造	非安全	第1類	
305	放射線管理施設	放射線監視・測定設備	排気用モニタB	中央操作棟	1	台	5	改造	非安全	第1類	
317	その他の加工施設	非常用設備	自動火災報知設備（均質棟防護カバー内の感知器の新設）	2号発回均質棟	-	式	5	新設	非安全	第3類	
318	その他の加工施設	非常用設備	温度センサ	2号発回均質棟 1号発回均質棟	22	台	5	新設	非安全	1G	
327	その他の加工施設	非常用設備	ハロンポンプ（2号中間室、2号発回均質室用）	中央操作棟 渡り廊下	19	本	5	新設	非安全	第3類	
328	その他の加工施設	非常用設備	ハロンポンプ（1号均質室用）	1号発回均質棟	4	本	5	新設	非安全	第3類	
329	その他の加工施設	非常用設備	主要配管（ハロン消火系）	2号発回均質棟 1号発回均質棟 中央操作棟 渡り廊下	-	式	5	新設	非安全	第3類	

既認可		今回申請							技術基準への適合に関する変更有無の考え方							
火災等による損傷の防止		火災等による損傷の防止							【既認可】 欄 ○：適合性確認を実施するもの △：条文要求を受けないもの							
【今回申請】 欄 ○：適合性確認を実施するもの（要求事項、設計内容に変更あり、変更内容に応じた取組を実施するもの） △：適合性について既認可から変更がないもの（要求事項、設計内容に変更がないため、今回の申請で変更は行わないもの） △：条文要求を受けないもの																
第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項	第11条第6項	第11条第7項	第11条第1項	第11条第2項	第11条第3項	第11条第4項	第11条第5項	第11条第6項	第11条第7項			
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	クラン廃水の閉じ込めに係る機器であり、安全機能（閉じ込め）喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IFを内包する機器ではないため、安全機能喪失時の影響の程度により対象外。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	液体廃棄物の閉じ込めに係る機器であるため、安全機能（閉じ込め）喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	撤去機器であるため対象外。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IFを内包する機器ではないため、安全機能喪失時の影響の程度により対象外。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	IFを内包する機器ではないため、安全機能喪失時の影響の程度により対象外。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	排気口の放射性濃度を測定する機器であり、安全機能（閉じ込め）喪失時の影響の程度により対象とする。主要材料に変更がないことから変更に関する説明は不要。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	火災の警報設備であるため対象となる。新設するため適合取組の対象とする。		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		
-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	同上		

添付 2

変更内容に係る補足説明事項について

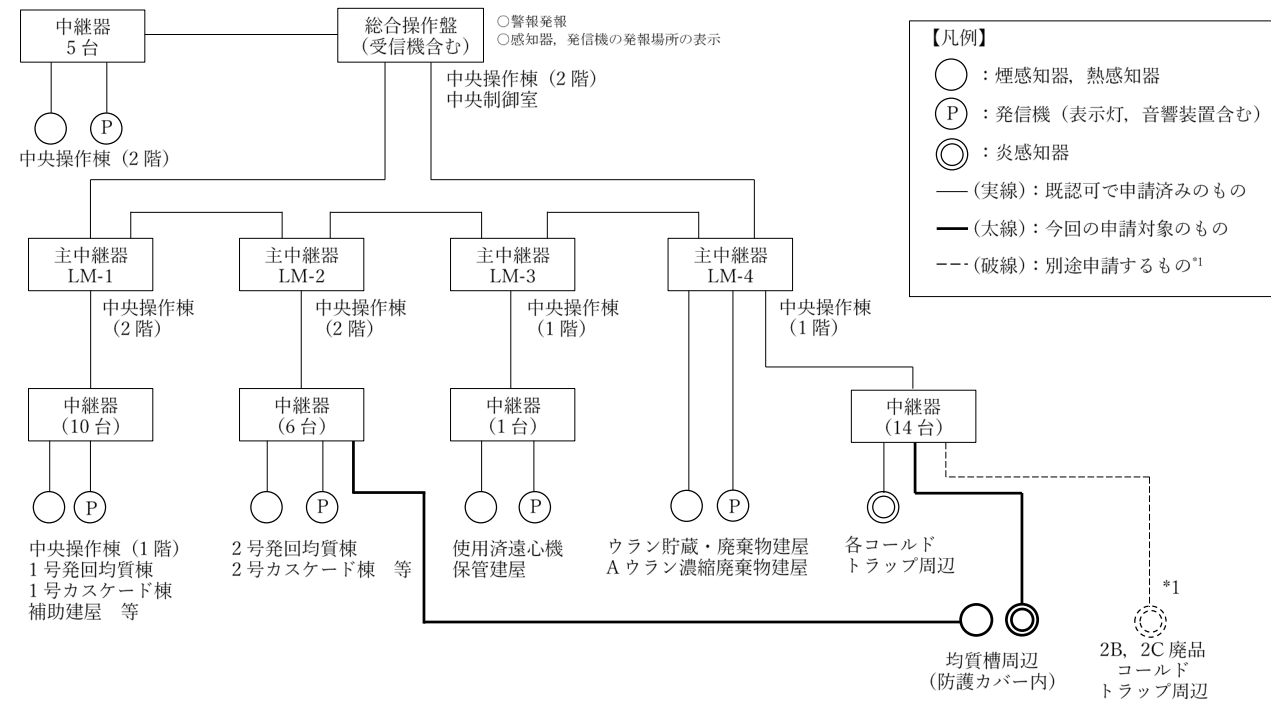
【第5回申請】

設工認申請書	補足説明	備考
<p>1. 概要</p> <p>本資料は、「加工施設の技術基準に関する規則（以下「技術基準規則」という。）」第11条第1項、第3項に基づき、火災等による損傷の防止について説明するものである。なお、第11条第1項、第3項以外については、本施設において各条項の設備に属する設備はないことから該当しない。</p> <p>本資料では、事業変更許可申請書にて示した追加安全対策（感知器（均質槽防護カバー内）、温度センサ、遠隔消火設備、防護板の設置）、設備・機器及び電気・計装ケーブルに係る火災発生防止対策及びUF₆を内包する機器への火災の影響軽減対策に関する評価（内部火災影響評価）について説明する。</p> <p>上記以外の設備及び機器の本項における要求事項の変更については、既認可にて当該事項に対する設計を申請済みであるとともに、それらに係る設計について変更はないため、今回の申請において変更は行わない。</p> <p>2. 基本方針</p> <p>本施設のウラン濃縮工程においては、可燃性ガス、有機溶媒等の可燃性の物質及び爆発性の物質を使用しない。なお、分析室等でアセトン等を使用するが、取扱量を制限することから本施設の安全性に影響を与えるような爆発が発生することは考えられない。これらのことから、本施設では、潤滑油、電気・計装系の火災を想定し、対策を講じる。</p> <p>本施設は、火災により本施設の安全性が損なわれないよう、火災の発生を防止することができ、かつ、火災発生を感知する設備及び消火を行う設備並びに火災の影響を軽減する機能を有する設計とし、消防法、建築基準法等関係法令に準拠する設計とする。</p> <p>本施設においては、UF₆の特徴及び取扱いを踏まえ、火災による熱影響によってUF₆の閉じ込め性が損なわれないよう、火災源と近接したUF₆を内包する機器を防護する設計とする。</p> <p>UF₆を内包する機器への火災の影響軽減対策については、米国の「放射性物質取扱施設の火災防護に関する基準」の内容を確認し、火災が臨界、閉じ込めの安全機能を損なわないことについて「原子力発電所の内部火災影響評価ガイド」（平成25年6月19日原規技発第13061914号 原子力規制委員会決定）（以下「内部火災影響評価ガイド」という。）を参考に評価する。</p>		

設工認申請書	補足説明	備考
<p>3. 火災の発生防止</p> <p>UF₆を内包する機器等の主要な部分は、不燃性の材料又は難燃性の材料を使用することにより火災等による損傷を防止する設計とする。</p> <p>また、UF₆を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料（鋼材）を使用し、火災の発生を防止する設計とする。電気・計装ケーブルについては、IEEE-383 の垂直トレイ試験等を満足する難燃性のものを使用又は金属製の盤内に配線を収納することで、火災の発生を防止する設計とする。</p>		

設工認申請書	補足説明	備考
<p>4. 火災の感知及び消火</p> <p>(1) 感知器及び温度センサ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コールドトラップ及び均質槽には、近接して可燃性の機械油を内包する機器があることから、火災を早期に感知するため、感知方法の異なる種類の感知器*1（煙感知器、熱感知器及び炎感知器）及び温度センサを組み合わせ多様化を図る設計とする。 ・感知器の種類は第3回申請でコールドトラップに設置するとしたものと同仕様（煙感知器（光電アナログ式スポット型感知器）、炎感知器（赤外線式スポット型感知器））とし、均質槽の防護カバー内に設置する。感知器の系統概略図を図-1に示す。 ・温度センサの種類は熱電対とし、中央制御室に加え、モニタエリア、2号発回均質室入口付近及び1号均質室入口付近においても監視可能な設計とする。温度センサの系統概略図を図-2に示す。 <p>*1：コールドトラップに係る感知方法の異なる種類の感知器の設置については、第3回申請にて認可済みである。</p>		

設工認申請書



*1: 2B, 2C 廃品コールドトラップ周辺の炎感知器は、本申請とは別に申請する「2号カスケード設備の新型遠心機への更新等」にて申請を行う。

図-1 自動火災報知設備の系統概略図 (注1)

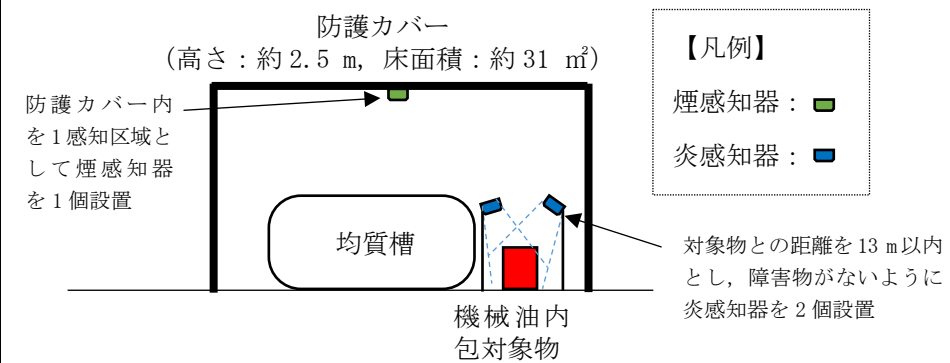
補足説明

(注1)

均質槽の防護カバー内に設置する感知器の仕様等は以下のとおり。

種類	煙感知器	炎感知器
	光電アナログ式スポット型感知器	赤外線式スポット型感知器
原理	感知器の内部の発光部から出る光が煙の進入により散乱反射するため、それを受光部で感知する。	炎から放射される赤外線を受光し、この受光量の変化が一定の値以上になったときに火災信号を発信する。
仕様	型式適合検定合格品	型式適合検定合格品
消防法設置要件	○感知区域ごとの必要床面積 (例: 取付面高さ 4 m 未満の場合は 150 m ²) あたり 1 個以上設置する。 ○高さ 0.6 m 以上の梁等に区切られた範囲を 1 感知区域とする。	○対象物との距離が 13 m 以内となるように感知器を設置する。 ○感知器は障害物等により火災の発生を感知できないことがないようにする。

概要図



設工認申請書	補足説明	備考						
<div data-bbox="311 352 700 548" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【凡例】</p> <p>○ : 温度センサ (熱電対)</p> <p>— (実線) : 今回の申請対象のもの</p> <p>--- (破線) : 別途申請するもの*1</p> </div> <div data-bbox="1142 373 1570 548" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>【説明】</p> <p>○コールドトラップ,均質槽の近傍に温度センサ (熱電対) を設置する。</p> <p>○搬送通路の現場個別監視盤,モニタエリアの現場監視盤及び中央制御室の監視盤で温度を監視できる設計とする。</p> </div> <p style="text-align: center;">*1: 2B, 2C 廃品コールドトラップ近傍の温度センサは, 本申請とは別に申請する「2号カスケード設備の新型遠心機への更新等」にて申請を行う。</p> <p style="text-align: center;">図-2 温度センサの系統概略図 (注2)</p>	<p>(注2)</p> <p>温度センサの仕様等は以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="1617 367 2567 777"> <tr> <td>種類</td> <td>温度センサ 熱電対</td> </tr> <tr> <td>仕様</td> <td>計測範囲: 0~1000 °C 警報動作値: 70 °C (警報動作値は, 熱アナログ式スポット型感知器の消防法の基準を参考に, 正常時における最高周囲温度 (40 °C) + 30 °Cとして 70 °Cに設定)</td> </tr> <tr> <td>設置方針</td> <td>○コールドトラップ及び均質槽 (コールドトラップの冷凍機及び均質槽の回転装置 (機械油内包対象物)) の近傍に設置する。</td> </tr> </table> <div data-bbox="1617 777 2567 1186"> <p>概要図</p> <div data-bbox="2338 808 2555 947" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【凡例】</p> <p>温度センサ: </p> </div> </div>	種類	温度センサ 熱電対	仕様	計測範囲: 0~1000 °C 警報動作値: 70 °C (警報動作値は, 熱アナログ式スポット型感知器の消防法の基準を参考に, 正常時における最高周囲温度 (40 °C) + 30 °Cとして 70 °Cに設定)	設置方針	○コールドトラップ及び均質槽 (コールドトラップの冷凍機及び均質槽の回転装置 (機械油内包対象物)) の近傍に設置する。	
種類	温度センサ 熱電対							
仕様	計測範囲: 0~1000 °C 警報動作値: 70 °C (警報動作値は, 熱アナログ式スポット型感知器の消防法の基準を参考に, 正常時における最高周囲温度 (40 °C) + 30 °Cとして 70 °Cに設定)							
設置方針	○コールドトラップ及び均質槽 (コールドトラップの冷凍機及び均質槽の回転装置 (機械油内包対象物)) の近傍に設置する。							

設工認申請書	補足説明	備考
<p>(2) 遠隔消火設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・均質槽及びコールドトラップには、従事者が火災の発生している室に立ち入らずに、早期にかつ確実に消火できるよう遠隔操作により消火を行う設備（遠隔消火設備）を設置する。なお、遠隔消火設備は原則として、消防法、同施行令、同施行規則及びその他関連法規に基づき設計、製作を行う。遠隔消火設備の系統概略図を図-3、4に、仕様を表-1、2に示す。 ・遠隔消火設備は固定式とし、遠隔消火設備に用いる消火剤及び遠隔消火設備の放出スイッチの設置場所は、火災区域（UF₆を内包する機器を設置する防火区画）外とする。 ・遠隔消火設備による消火は、ハロン消火剤によって消火するものとし、万一、ハロン消火剤による遠隔消火ができなかった場合を考慮し、二酸化炭素消火剤を併設する。 ・二酸化炭素消火剤を使用するに当たっては、従事者への影響を考慮し、ハロン消火剤より先に二酸化炭素消火剤を噴射することがない設計とする。二酸化炭素消火剤を使用する際は、消火対象の室からの人の退避が完了した後に使用する。 		

設工認申請書

補足説明

備考

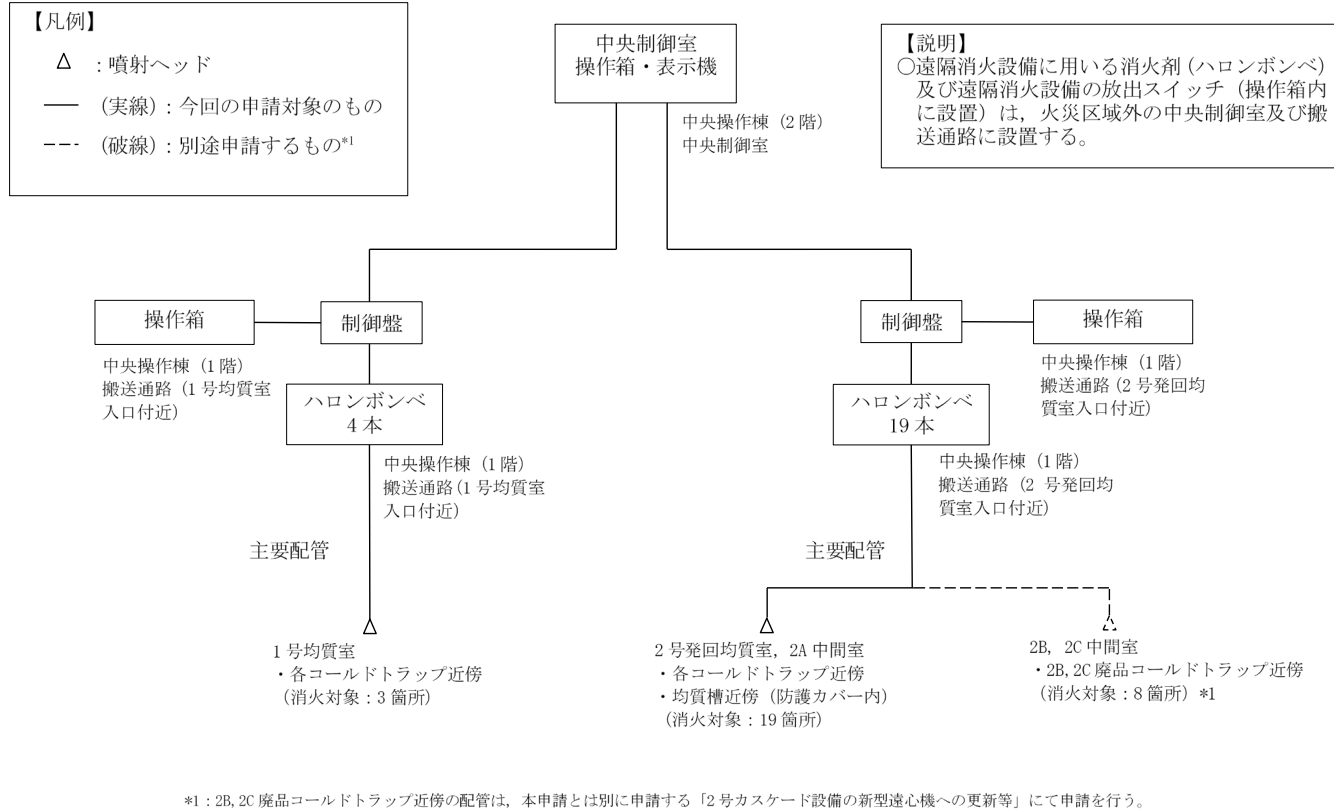


図-3 遠隔消火設備（ハロン消火系）の系統概略図

表-1 遠隔消火設備（ハロン消火系）の仕様

項目		仕様
消火剤	消火剤	ハロン 1301
	消火原理	連鎖反応抑制（負触媒効果）
	消火剤の特徴	設備及び人体に対して無害
消火設備	適用規格	消防法施行規則第 20 条
	放出方式	中央制御室からの手動起動 (現場からの手動起動も可能な設計とする。)
	消火方式	局所放出方式
	消火容量	総務省告示第 558 号「製造所等のハロゲン化物消火設備の技術上の基準の細目を定める告示」に基づき算出 ^(注3)
	電源	蓄電池を設置
	破損、誤動作、誤操作による影響	電気絶縁性が高く、揮発性の高いハロンは、電気設備及び機械設備に影響を与えない。
	材料、構造及び強度	高圧ガス保安法及び消防法の材料、構造及び強度の規定に基づき設計する。(「IV 強度に関する説明書」において技術基準規則第 15 条に係る設計を示す。)
	安全装置	火災による熱の影響を受けても破損及び爆発しないよう、ボンベに接続する安全弁により、ボンベの加圧防止を図る設計とする。
	警報装置	・消火設備が作動する前に従事者等の退出ができるように退避警報を発する設計とする。 ・電源断等の故障が発生した場合、故障警報を中央制御室の表示機に発する設計とする。

(注3)
算出内容の詳細を別紙 1 に示す。

設工認申請書

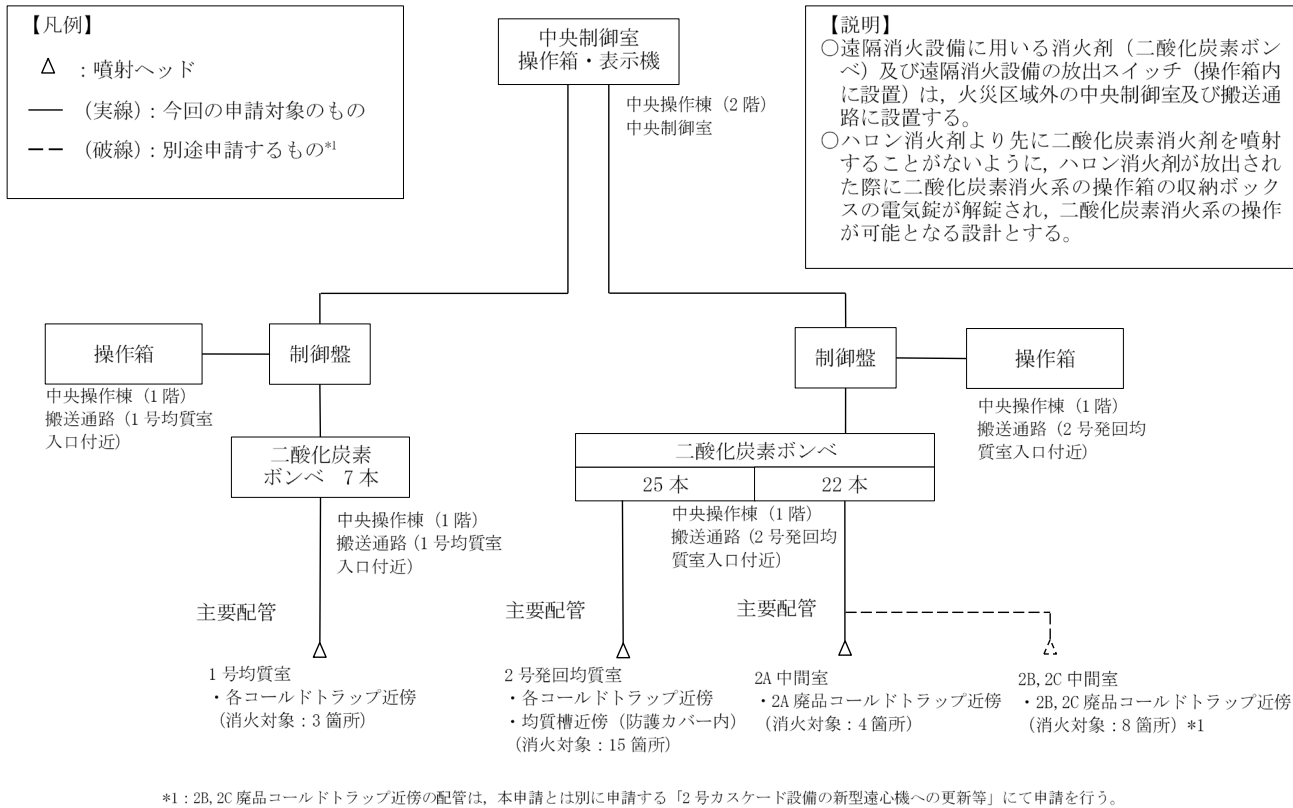


図-4 遠隔消火設備（二酸化炭素消火系）の系統概略図

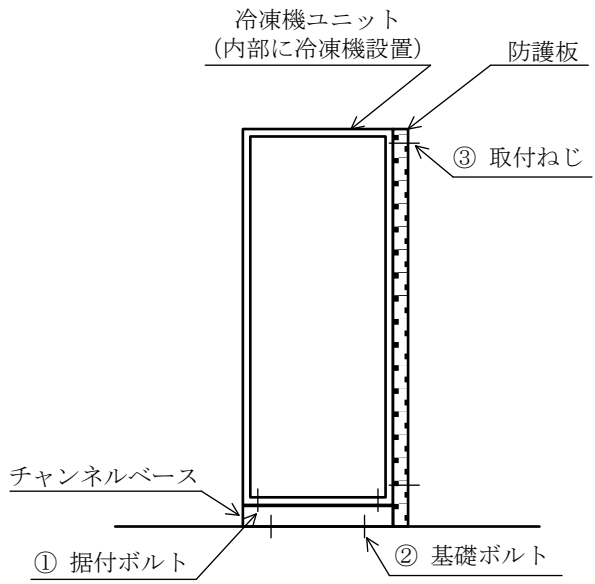
表-2 遠隔消火設備（二酸化炭素消火系）の仕様

項目		仕様
消火剤	消火剤	二酸化炭素
	消火原理	窒息消火
	消火剤の特徴	設備に対して無害
消火設備	適用規格	消防法施行規則第19条
	放出方式	中央制御室からの手動起動 (現場からの手動起動も可能な設計とする。)
	消火方式	局所放出方式
	消火容量	総務省告示第557号「製造所等の不活性ガス消火設備の技術上の基準の細目を定める告示」に基づき算出(注3)
	電源	蓄電池を設置
	破損、誤動作、誤操作による影響	不活性である二酸化炭素は、電気設備及び機械設備に影響を与えない。
	材料、構造及び強度	高圧ガス保安法及び消防法の材料、構造及び強度の規定に基づき設計する。(「IV 強度に関する説明書」において技術基準規則第15条に係る設計を示す。)
	安全装置	火災による熱の影響を受けても破損及び爆発しないよう、ポンベに接続する安全弁により、ポンベの加圧防止を図る設計とする。
	警報装置	・消火設備が作動する前に従事者等の退出ができるように退避警報を発する設計とする。 ・電源断等の故障が発生した場合、故障警報を中央制御室の表示機に発する設計とする。

補足説明

(注3)
算出内容の詳細を別紙1に示す。

備考

設工認申請書	補足説明	備考
<p>5. 火災の影響軽減</p> <p>コールドトラップと近接して設置する冷凍機は、可燃性の機械油を内包するため、コールドトラップが直接火災の影響を受けないようにコールドトラップと冷凍機との間に耐火性を有する防護板を設置する。概要を図-5に示す。</p> <p>なお、火災の熱によるコールドトラップ内のUF₆の液化膨張の影響については、第4回申請で閉じ込め性に問題がないことを評価済みである。また、第4回申請でUF₆を内包する配管の直下に設置され、盤上部に開口部を有する計装盤等について防護板等を設置するとしているが、今回申請する設備において、これに該当する計装盤等はない。</p> <p>(1) 防護板の設置に係る考慮</p> <p>防護板については、熱量の大きい機械油の火災を踏まえると、機械油の量から考えて比較的短時間（約10分程度）で火災が終息するため、防護板に特別な耐火時間等を求めるものではないが、火災を遮る必要があることから不燃性の材料を用いる。</p> <p>また、防護板の設置においては、波及的影響を考慮して、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震による冷凍機ユニット及び防護板から耐震重要度分類第1類のコールドトラップへの波及的影響を考慮し、防護板の荷重を見込んだ冷凍機ユニット及び防護板に対して、第1類の地震力を用いて耐震評価を実施する。なお、<u>耐震評価の対象部位は、地震発生時に応力が集中する以下の部位とする。</u>(注4) <ol style="list-style-type: none"> ① 冷凍機ユニットとチャンネルベースを固定する据付ボルト ② 冷凍機ユニットのチャンネルベースと床面を固定する基礎ボルト ③ 冷凍機ユニットと防護板を固定する取付ねじ <p>評価の結果、各部位に発生する応力は、各部位の許容応力以下であり、地震により冷凍機ユニット及び防護板は、コールドトラップに対して波及的影響を及ぼすおそれはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 盤上部に取り付ける防護板については、盤内冷却機能への影響を考慮し300mm程度の隔離距離を設ける。また、地震により盤上部の防護板が落下し、盤に衝突したとしても、盤自体はUF₆を内包しない機器であり、閉じ込め等の安全機能に影響を及ぼすおそれはない。 	<p>(注4)</p> <p>地震による冷凍機ユニット及び防護板からコールドトラップへの波及的影響を考慮した耐震評価の対象部位①～③の概要は下図のとおり。</p>  <p>図 冷凍機ユニット及び防護板の耐震評価部位</p>	

設工認申請書	補足説明	備考
<div data-bbox="329 436 1151 968" data-label="Diagram"> <p data-bbox="430 436 638 499">冷凍機ユニット (内部に冷凍機設置)</p> <p data-bbox="706 468 786 499">防護板</p> <p data-bbox="934 667 1121 699">コールドトラップ</p> <p data-bbox="557 934 934 968">コールドトラップに対する考慮</p> </div> <p data-bbox="489 1035 994 1066">図-5 直接火炎の影響防止に関する概要図</p>		

設工認申請書	補足説明	備考
<p>6. 内部火災影響評価</p> <p>UF₆を内包する機器への火災の影響軽減対策として、「原子力発電所の内部火災影響評価ガイド」（平成 25 年 6 月 19 日 原規技発第 13061914 号 原子力規制委員会決定）（以下「内部火災影響評価ガイド」という。）を参考に内部火災影響評価を実施する。</p> <p>なお、本評価は本申請（第 1 回申請～第 5 回申請）及び「新型遠心機への更新（RE-2A 後半, 2B, 2C）に係る申請」における変更内容を含めた施設全体を対象に行う。</p> <div data-bbox="338 617 1190 1709" style="text-align: center;"> <pre> graph TD Start([評価開始]) --> Selection[火災影響評価対象の選定] subgraph SelectionBox [] direction TB S1[火災影響評価対象設備の選定] --> S2[火災区域の設定] end SelectionBox --> Info[情報及びデータの収集・整理] subgraph InfoBox [] direction TB I1[火災源の識別と等価時間の設定] --> I2[火災の感知・消火手段の把握] --> I3[火災区域特性表の作成] end InfoBox --> Decision{延焼の有無} Decision -- Yes --> Protection[防護対策強化] Protection --> InfoBox Decision -- No --> End([評価終了]) </pre> <p>火災影響評価フロー</p> </div>		

設工認申請書	補足説明	備考
<p>6.1 火災影響評価対象の選定</p> <p>(1) 火災影響評価対象設備の選定</p> <p>火災によるUF₆の漏えいを防ぐため、UF₆を内包する機器を火災影響評価対象設備として選定する。</p> <p>(2) 火災区域の設定</p> <p>消防法に基づき設定する本施設内の防火区画のうち、上記の火災影響評価対象設備を設置する防火区画を火災区域として設定する。火災区域は、室内の火災荷重から導かれる等価時間（潜在的火災継続時間）以上の耐火能力を有する耐火壁（耐火シール、防火扉、防火シャッターを含む。）によって他の区域と分離する。</p> <p>火災区域の設定結果を図-6, 7に示す。</p>		

設工認申請書

補足説明

備考

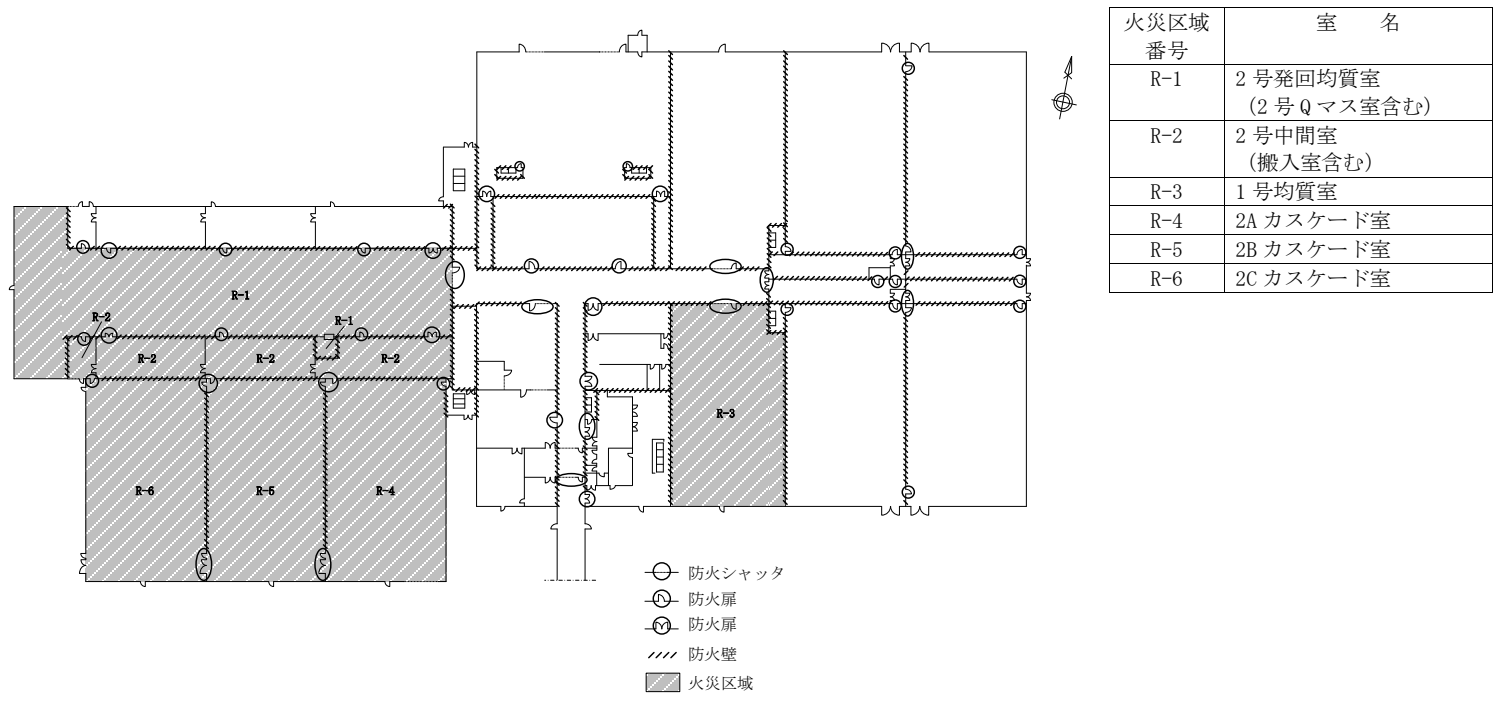


図-6 火災区域設定図 (ウラン濃縮建屋1階)

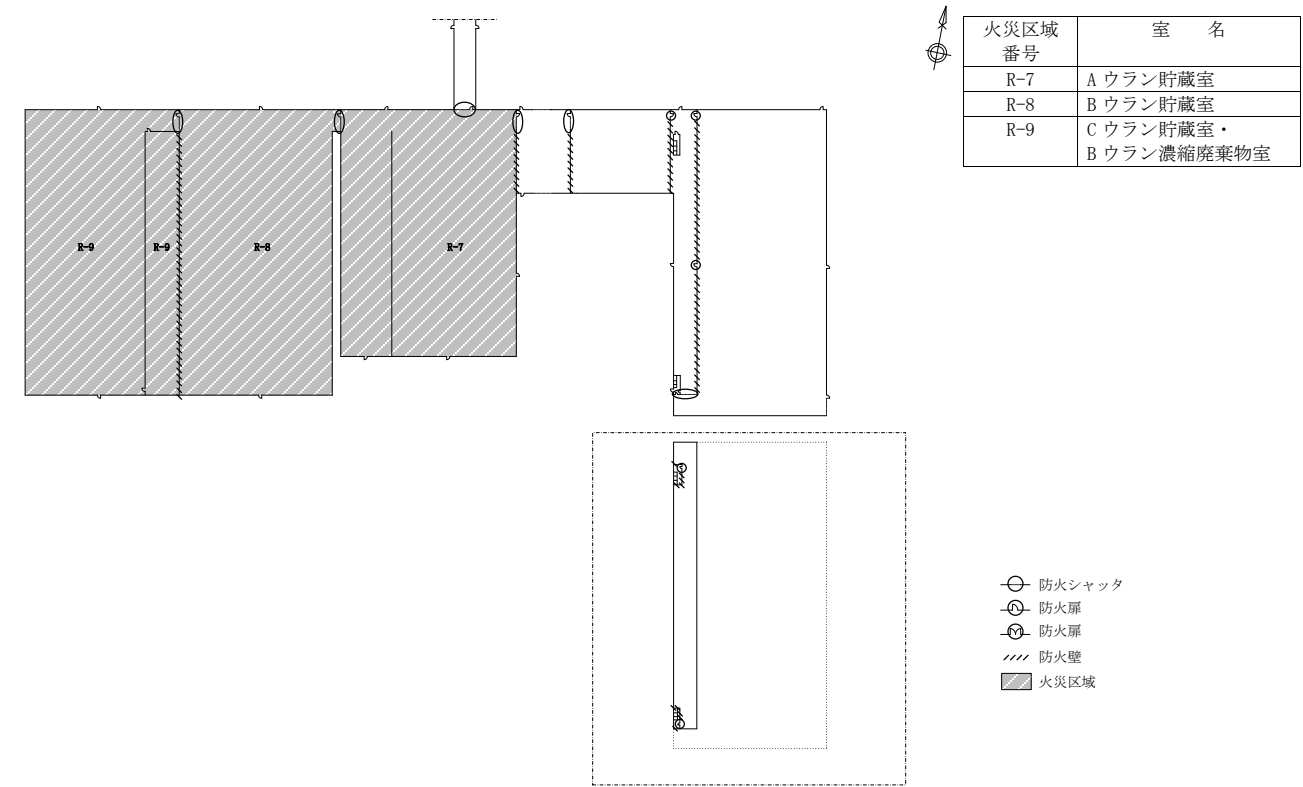


図-7 火災区域設定図 (ウラン貯蔵・廃棄物建屋, Aウラン濃縮廃棄物建屋及び使用済遠心機保管建屋)

設工認申請書	補足説明	備考										
<p>6.2 情報及びデータの収集・整理</p> <p>(1) 火災区域の火災源の識別と総発熱量の確認</p> <p>火災区域において想定される火災源を設定するとともに各火災区域に存在する可燃物量を調査する。調査した可燃物量から内部火災影響評価ガイド及び NFPA FIRE PROTECTION Handbook 20th Edition (以降, NFPA ハンドブックという。) を参考に各火災区域の発熱量を算出する。設定した想定火災源を表-3 に, 算出した発熱量を表-4 に示す。</p> <p style="text-align: center;">表-3 火災区域における想定火災源</p> <table border="1" data-bbox="293 669 1353 1031"> <thead> <tr> <th>想定火災源</th> <th>火災原因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケーブル</td> <td>過電流によりケーブルが発熱して発火し火災が発生する。</td> </tr> <tr> <td>潤滑油</td> <td>コールドトラップの冷凍機等の潤滑油が漏えいし, 室内床面等に留まった状態において着火の可能性がある場合, 火災が発生する。</td> </tr> <tr> <td>電気・計装盤</td> <td>盤内でのケーブルの接触不良等を起因として火災が発生する。</td> </tr> <tr> <td>ポンプ・モータ</td> <td>ポンプ・モータなどの動的機器において, 機器の故障を起因として火災が発生する。</td> </tr> </tbody> </table>	想定火災源	火災原因	ケーブル	過電流によりケーブルが発熱して発火し火災が発生する。	潤滑油	コールドトラップの冷凍機等の潤滑油が漏えいし, 室内床面等に留まった状態において着火の可能性がある場合, 火災が発生する。	電気・計装盤	盤内でのケーブルの接触不良等を起因として火災が発生する。	ポンプ・モータ	ポンプ・モータなどの動的機器において, 機器の故障を起因として火災が発生する。		
想定火災源	火災原因											
ケーブル	過電流によりケーブルが発熱して発火し火災が発生する。											
潤滑油	コールドトラップの冷凍機等の潤滑油が漏えいし, 室内床面等に留まった状態において着火の可能性がある場合, 火災が発生する。											
電気・計装盤	盤内でのケーブルの接触不良等を起因として火災が発生する。											
ポンプ・モータ	ポンプ・モータなどの動的機器において, 機器の故障を起因として火災が発生する。											

設工認申請書							補足説明				備考				
表-4 各火災区域の総発熱量 ^(注5)							(注5) 可燃物の設定熱量は以下のとおり、根拠は内部火災影響評価ガイド及びNFPAハンドブックに基づく。								
火災区域	火災区域ごとに存在する可燃物の発熱量					各火災区域の 総発熱量 (MJ)						項目	分類	設定熱量	発熱量の根拠
	ケーブルの 発熱量 (MJ)	潤滑油の発 熱量 (MJ)	電気・計装 盤の発熱量 (MJ)	シートの発 熱量 (MJ)	その他機器 付属品（ゴ ム等）の発 熱量 (MJ)							ケーブル	—	26 MJ/kg	原子力発電所の内部火災影響評価ガイドの P10 の 25.568 MJ を安全側に丸めた値。
2号発回均質室 (2号Qマス室含む)	666,452	7,332	135,900	36,300	9,300	855,284						潤滑油	—	44 MJ/l	原子力発電所の内部火災影響評価ガイドの P10 の 43.171 MJ を安全側に丸めた値。
2号中間室 (搬入室含む)	286,078	5,280	91,800	7,200	2,050	392,408						電気・計装盤	コントロールセンタ	3300 MJ/面	第2種管理区域のC/Cのうち、盤サイズが大きく、盤内の収納物質の多いC/C 1A-1-6を代表として、盤内の物質量を調査し、熱含有量を乗じて算出した（なお、第1種管理区域にC/Cは設置していない。）。
1号均質室	235,043	14,498	57,600	28,800	6,450	342,391							その他直立盤	900 MJ/面	火災区域の直立盤のうち、盤サイズが大きく、盤内の収納物質の多い2号ラインヒータ盤（発生系統-1）を代表として、盤内の物質量を調査し、熱含有量を乗じて算出した。
2Aカスケード室	212,143	0	63,900	28,400	9,600	314,043						シート	オレフィン系エラストマー	50 MJ/kg	オレフィン系はポリエチレンとポリプロピレンの合成であるため、発熱量の高いポリエチレンの発熱量（47.7 MJ/kg）を丸めた値とする。発熱量はNFPAハンドブック P6-276 (polyethylene) より。
2Bカスケード室	128,618	0	87,300	0	22,400	238,318						その他機器付 属品（ゴム等）	—	50 MJ/基	以下の機器の付属品の発熱量を合計し、丸めた値とする。 ・シール材等のゴム（23.246 MJ/kg） 1 kg ⇒ 23.246 MJ ・付属のプラスチック（47.7 MJ/kg） 0.5 kg ⇒ 24 MJ ・チェックシート等の紙（18.594 MJ/kg） 0.1 kg ⇒ 2 MJ
2Cカスケード室	149,705	0	88,200	0	22,450	260,355									
Aウラン貯蔵室	83,760	1,980	15,600	0	26,750	128,090									
Bウラン貯蔵室	29,756	660	6,000	0	28,850	65,266									
Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物室	24,088	423	2,700	0	32,500	59,711									

設工認申請書	補足説明	備考																																								
<p>(2) 等価時間の設定</p> <p>各火災区域における等価時間について、内部火災影響評価ガイドを参考に次式により算出する。算出した結果を表-5に示す。</p> $\text{等価時間 (h)} = \frac{\text{火災荷重(MJ/m}^2\text{)}}{\text{燃焼率(MJ/m}^2\text{/h)}^{\ast}}$ $\text{火災荷重 (MJ/m}^2\text{)} = \frac{\text{火災区域の総発熱量(MJ)}}{\text{火災区域の床面積(m}^2\text{)}}$ <p>※燃焼率は、内部火災影響評価ガイドより引用^(注6)</p> <p style="text-align: center;">表-5 各火災区域の等価時間</p> <table border="1" data-bbox="290 821 1320 1598"> <thead> <tr> <th>火災区域</th> <th>火災区域の総発熱量 (MJ)</th> <th>火災区域の床面積 (㎡)</th> <th>等価時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2号発回均質室 (2号Qマス室含む)</td> <td>855,284</td> <td>3,358.860</td> <td>0.28</td> </tr> <tr> <td>2号中間室 (搬入室含む)</td> <td>392,408</td> <td>1,158.015</td> <td>0.37</td> </tr> <tr> <td>1号均質室</td> <td>342,391</td> <td>1,784.710</td> <td>0.21</td> </tr> <tr> <td>2Aカスケード室</td> <td>314,043</td> <td>1,858.744</td> <td>0.19</td> </tr> <tr> <td>2Bカスケード室</td> <td>238,318</td> <td>1,857.900</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td>2Cカスケード室</td> <td>260,355</td> <td>1,907.725</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>Aウラン貯蔵室</td> <td>128,090</td> <td>6,606.550</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>Bウラン貯蔵室</td> <td>65,266</td> <td>6,821.178</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物 室</td> <td>59,711</td> <td>6,743.700</td> <td>0.01</td> </tr> </tbody> </table>	火災区域	火災区域の総発熱量 (MJ)	火災区域の床面積 (㎡)	等価時間 (h)	2号発回均質室 (2号Qマス室含む)	855,284	3,358.860	0.28	2号中間室 (搬入室含む)	392,408	1,158.015	0.37	1号均質室	342,391	1,784.710	0.21	2Aカスケード室	314,043	1,858.744	0.19	2Bカスケード室	238,318	1,857.900	0.14	2Cカスケード室	260,355	1,907.725	0.15	Aウラン貯蔵室	128,090	6,606.550	0.02	Bウラン貯蔵室	65,266	6,821.178	0.01	Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物 室	59,711	6,743.700	0.01	<p>(注6)</p> <p>燃焼率は、内部火災影響評価ガイドの以下の値を使用。</p> <p>「燃焼率：単位時間単位面積当たりの発熱量 (908,095 kJ/m²/h)」</p>	
火災区域	火災区域の総発熱量 (MJ)	火災区域の床面積 (㎡)	等価時間 (h)																																							
2号発回均質室 (2号Qマス室含む)	855,284	3,358.860	0.28																																							
2号中間室 (搬入室含む)	392,408	1,158.015	0.37																																							
1号均質室	342,391	1,784.710	0.21																																							
2Aカスケード室	314,043	1,858.744	0.19																																							
2Bカスケード室	238,318	1,857.900	0.14																																							
2Cカスケード室	260,355	1,907.725	0.15																																							
Aウラン貯蔵室	128,090	6,606.550	0.02																																							
Bウラン貯蔵室	65,266	6,821.178	0.01																																							
Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物 室	59,711	6,743.700	0.01																																							

設工認申請書	補足説明	備考
<p>(3) 耐火構造物の仕様, 感知・消火手段の把握及び耐火時間の設定</p> <p>火災区域の耐火構造物の仕様, 感知・消火手段等を確認するとともに, NFPA ハンドブック, 建築基準法を参考に火災区域の耐火時間を設定する。火災区域の耐火構造物の仕様, 感知・消火手段及び耐火時間を表-6 に示す。</p> <p>また, 上記(1)～(3) で整理した情報を基に火災区域の名称, 床面積, 火災源, 発熱量等を記載した火災区域ごとの火災区域特性表を作成する。^(注7)</p>	<p>(注7)</p> <p>火災区域ごとの火災区域特性表を別紙2 に示す。</p>	

設工認申請書							補足説明	備考
表-6 各火災区域の仕様（耐火構造物の仕様、感知・消火手段）と耐火時間							(注8)	
火災区域	各火災区域の耐火構造物の仕様				各火災区域の感知・消火手段		耐火時間 (h) *1	<p>(注8)</p> <p>耐火時間は、火災区域を構成する耐火構造物（壁、天井、扉及びシャッタ等）のうち、最も厳しい（小さい）値としている。</p> <p>2号発回均質室の場合、壁、天井は耐火時間3.00（鉄筋コンクリート150mm以上）、防火戸、シャッタは耐火時間1.00（特定防火設備）、壁、天井の貫通部は耐火時間1.00（建築基準法）であるため、最も小さい1.00をこの火災区域の耐火時間としている。</p> <p>いずれの火災区域も一定のコンクリート厚さ等はあるが、防火戸等の耐火時間が1.00であるため、結果として火災区域の耐火時間は一律1.00となっている。</p>
	壁	天井	扉	シャッタ	感知手段	消火手段		
2号発回均質室 (2号Qマス室含む)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	防火シャッタ (特定防火設備)	煙感知器 炎感知器 温度センサ	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器 遠隔消火設備	1.00	
2号中間室 (搬入室含む)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	—	煙感知器 炎感知器 温度センサ	第五種CO ₂ 消火器 遠隔消火設備	1.00	
1号均質室	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	防火シャッタ (特定防火設備)	煙感知器 炎感知器 温度センサ	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器 遠隔消火設備	1.00	
2Aカスケード室	PC板 (厚さ：120mm)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	—	煙感知器	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器	1.00	
2Bカスケード室	PC板 (厚さ：120mm)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	—	煙感知器	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器	1.00	
2Cカスケード室	PC板 (厚さ：120mm)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	—	煙感知器	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器	1.00	
Aウラン貯蔵室	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	防火シャッタ (特定防火設備)	煙感知器	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器	1.00	
Bウラン貯蔵室	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	防火シャッタ (特定防火設備)	煙感知器	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器	1.00	
Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃 棄物室	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	鉄筋コンクリート (厚さ：150mm以上)	防火戸 (特定防火設備)	防火シャッタ (特定防火設備)	煙感知器	第三種CO ₂ 消火設備 第五種CO ₂ 消火器	1.00	
<p>*1：各火災区域の耐火時間は、火災区域を構成する耐火構造物（壁、天井、扉、シャッタ等）のうち、最も厳しい（小さい）値とした。各耐火構造物の耐火時間の設定の考え方を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリートは、NFPAハンドブック（CHAPTER 2 Structural Integrity During Fire 19-53 FIGURE 19.2.20）を参考にコンクリート厚さ（80mm以上：耐火時間1.00、110mm以上：耐火時間2.00、150mm以上：耐火時間3.00）から設定する。 扉、シャッタについては、1時間耐火性能を有する「特定防火設備」（建設省告示第1369号）であるため、耐火時間は1.00とする。 PC板については、建築基準法施行令第107条の規定に基づく間仕切壁（非耐力壁）の1時間に適合することから、耐火時間は1.00とする。 火災区画の壁、天井の貫通部は建築基準法に基づき、耐熱シール材、耐火仕切り板等でシール処理するため、耐火時間は1.00とする。 								

設工認申請書	補足説明	備考																																								
<p>6.3 延焼の有無の評価</p> <p>各火災区域における等価時間と耐火時間の比較結果を表-7に示す。いずれの火災区域についても等価時間は耐火時間を下回っており、隣接する火災区域に延焼するおそれはない。</p> <p style="text-align: center;">表-7 等価時間と耐火時間の比較</p> <table border="1" data-bbox="270 569 1219 1310"> <thead> <tr> <th>火災区域</th> <th>等価時間 (h)</th> <th>耐火時間 (h)</th> <th>評価結果 *1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2号発回均質室 (2号Qマス室含む)</td> <td>0.28</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2号中間室 (搬入室含む)</td> <td>0.37</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>1号均質室</td> <td>0.21</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2Aカスケード室</td> <td>0.19</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2Bカスケード室</td> <td>0.14</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2Cカスケード室</td> <td>0.15</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>Aウラン貯蔵室</td> <td>0.02</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>Bウラン貯蔵室</td> <td>0.01</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物室</td> <td>0.01</td> <td>1.00</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：評価結果 ○：等価時間<耐火時間，×：等価時間≥耐火時間</p>	火災区域	等価時間 (h)	耐火時間 (h)	評価結果 *1	2号発回均質室 (2号Qマス室含む)	0.28	1.00	○	2号中間室 (搬入室含む)	0.37	1.00	○	1号均質室	0.21	1.00	○	2Aカスケード室	0.19	1.00	○	2Bカスケード室	0.14	1.00	○	2Cカスケード室	0.15	1.00	○	Aウラン貯蔵室	0.02	1.00	○	Bウラン貯蔵室	0.01	1.00	○	Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物室	0.01	1.00	○		
火災区域	等価時間 (h)	耐火時間 (h)	評価結果 *1																																							
2号発回均質室 (2号Qマス室含む)	0.28	1.00	○																																							
2号中間室 (搬入室含む)	0.37	1.00	○																																							
1号均質室	0.21	1.00	○																																							
2Aカスケード室	0.19	1.00	○																																							
2Bカスケード室	0.14	1.00	○																																							
2Cカスケード室	0.15	1.00	○																																							
Aウラン貯蔵室	0.02	1.00	○																																							
Bウラン貯蔵室	0.01	1.00	○																																							
Cウラン貯蔵室・ Bウラン濃縮廃棄物室	0.01	1.00	○																																							

別紙 1

遠隔消火設備の必要消火剤量について

遠隔消火設備の必要消火剤量について

系統名	消火対象	消火剤種類	消火剤必要量	消火剤必要量算出式	消防法施行規則 準拠条文
ハロン消火系 (2号中間室, 2号発回均質 室用)	2号製品コールドトラップ(冷凍機)(A)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号製品コールドトラップ(冷凍機)(B)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号製品コールドトラップ(冷凍機)(C)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号製品コールドトラップ(冷凍機)(D)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号一般パージ系コールドトラップ(冷凍機)(A)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号一般パージ系コールドトラップ(冷凍機)(B)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号一般パージ系コールドトラップ(冷凍機)(C)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質槽(回転装置)(A)	ハロン1301	25.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質槽(回転装置)(B)	ハロン1301	25.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質槽(回転装置)(C)	ハロン1301	25.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質槽(回転装置)(D)	ハロン1301	25.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質槽(回転装置)(E)	ハロン1301	25.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質槽(回転装置)(F)	ハロン1301	25.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質パージ系コールドトラップ(冷凍機)(A)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2号均質パージ系コールドトラップ(冷凍機)(B)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2A廃品コールドトラップ(冷凍機)(A)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2A廃品コールドトラップ(冷凍機)(B)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2A廃品コールドトラップ(冷凍機)(C)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2A廃品コールドトラップ(冷凍機)(D)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	2B廃品コールドトラップ(冷凍機)(A)	ハロン1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
2B廃品コールドトラップ(冷凍機)(B) ^(注4)	ハロン1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条	

系統名	消火対象	消火剤種類	消火剤必要量	消火剤必要量算出式	消防法施行規則 準拠条文
(前頁つづき) ハロン消火系 (2号中間室, 2号発回均質 室用)	2B 廃品コールドトラップ (冷凍機) (C) (注4)	ハロン 1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (4-3 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25 (ハロン 1301)	第 20 条
	2B 廃品コールドトラップ (冷凍機) (D) (注4)	ハロン 1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (4-3 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25 (ハロン 1301)	第 20 条
	2CA 廃品コールドトラッ プ (冷凍機) (A) (注4)	ハロン 1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (4-3 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25 (ハロン 1301)	第 20 条
	2C 廃品コールドトラップ (冷凍機) (B) (注4)	ハロン 1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (4-3 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25 (ハロン 1301)	第 20 条
	2C 廃品コールドトラップ (冷凍機) (C) (注4)	ハロン 1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (4-3 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25 (ハロン 1301)	第 20 条
	2C 廃品コールドトラップ (冷凍機) (D) (注4)	ハロン 1301 (注4)	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (4-3 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25 (ハロン 1301)	第 20 条
<u>必要消火材量 合計 885.0kg</u> <u>ボンベ必要本数 18本 (50_{kg}/本)</u> <u>設置ボンベ数 19本</u>					

(注1) 防護対象物の全ての部分から 0.6m 離れた部分によって囲まれた空間の部分

(注2) 防護対象物の周囲に実際に設けられた壁の面積の合計

(注3) 防護空間の壁の面積 (壁のない部分にあつては、壁があると仮定した場合における当該部分の面積) の合計

(注4) 今回申請対象外の設備

系統名	消火対象	消火剤種類	消火剤 必要量	消火剤必要量算出式	消防法施行規則 準拠条文
二酸化炭素消 火系 (2号中間 室用)	2A 廃品コールドトラップ (冷凍機) (A)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2A 廃品コールドトラップ (冷凍機) (B)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2A 廃品コールドトラップ (冷凍機) (C)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2A 廃品コールドトラップ (冷凍機) (D)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2B 廃品コールドトラップ (冷凍機) (A)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2B 廃品コールドトラップ (冷凍機) (B) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2B 廃品コールドトラップ (冷凍機) (C) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2B 廃品コールドトラップ (冷凍機) (D) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2CA 廃品コールドトラッ プ (冷凍機) (A) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2C 廃品コールドトラップ (冷凍機) (B) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2C 廃品コールドトラップ (冷凍機) (C) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条
	2C 廃品コールドトラップ (冷凍機) (D) (注4)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数 (8-6 (a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4 (高圧式)	第 19 条

必要消火材量 合計 940.8kg ボンベ必要本数 21 本 (45_{kg/本}) 設置ボンベ数 22 本

(注 1) 防護対象物の全ての部分から 0.6m 離れた部分によって囲まれた空間の部分

(注 2) 防護対象物の周囲に実際に設けられた壁の面積の合計

(注 3) 防護空間の壁の面積 (壁のない部分にあっては、壁があると仮定した場合における当該部分の面積) の合計

(注 4) 今回申請対象外の設備

系統名	消火対象	消火剤種類	消火剤 必要量	消火剤必要量算出式	消防法施行規則 準拠条文
二酸化炭素消 火系（2号発回 均質室用）	2号製品コールドトラップ（冷凍機）（A）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号製品コールドトラップ（冷凍機）（B）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号製品コールドトラップ（冷凍機）（C）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号製品コールドトラップ（冷凍機）（D）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号一般パージ系コールドトラップ（冷凍機）（A）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号一般パージ系コールドトラップ（冷凍機）（B）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号一般パージ系コールドトラップ（冷凍機）（C）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質槽（回転装置）（A）	二酸化炭素	56.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質槽（回転装置）（B）	二酸化炭素	56.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質槽（回転装置）（C）	二酸化炭素	56.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質槽（回転装置）（D）	二酸化炭素	56.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質槽（回転装置）（E）	二酸化炭素	56.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質槽（回転装置）（F）	二酸化炭素	56.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
	2号均質パージ系コールドトラップ（冷凍機）（A）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条
2号均質パージ系コールドトラップ（冷凍機）（B）	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数（8-6（a ^(注2) ）/A ^(注3) ） × 1.4（高圧式）	第19条	

必要消火材量 合計 1041.6kg ボンベ必要本数 24本（45kg/本） 設置ボンベ数 25本

（注1） 防護対象物の全ての部分から0.6m離れた部分によって囲まれた空間の部分

（注2） 防護対象物の周囲に実際に設けられた壁の面積の合計

（注3） 防護空間の壁の面積（壁のない部分にあつては、壁があると仮定した場合における当該部分の面積）の合計

系統名	消火対象	消火剤種類	消火剤 必要量	消火剤必要量算出式	消防法施行規則 準拠条文
ハロン消火系 (1号均質室 用)	回収系混合ガスコールド トラップ(冷凍機)(A)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	回収系混合ガスコールド トラップ(冷凍機)(B)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条
	回収系混合ガスコールド トラップ(冷凍機)(C)	ハロン1301	35.0kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(4-3(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.25(ハロン1301)	第20条

必要消火材量 合計 105.0kg ボンベ必要本数 3本(50kg/本) 設置ボンベ数 4本

(注1) 防護対象物の全ての部分から0.6m離れた部分によって囲まれた空間の部分

(注2) 防護対象物の周囲に実際に設けられた壁の面積の合計

(注3) 防護空間の壁の面積(壁のない部分にあつては、壁があると仮定した場合における当該部分の面積)の合計

系統名	消火対象	消火剤種類	消火剤 必要量	消火剤必要量算出式	消防法施行規則 準拠条文
二酸化炭素消 火系(1号均質 室用)	回収系混合ガスコールド トラップ(冷凍機)(A)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(8-6(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4(高圧式)	第19条
	回収系混合ガスコールド トラップ(冷凍機)(B)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(8-6(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4(高圧式)	第19条
	回収系混合ガスコールド トラップ(冷凍機)(C)	二酸化炭素	78.4kg	防護空間 ^(注1) × 消火剤係数(8-6(a ^(注2) /A ^(注3))) × 1.4(高圧式)	第19条

必要消火材量 合計 235.2kg ボンベ必要本数 6本(45kg/本) 設置ボンベ数 7本

(注1) 防護対象物の全ての部分から0.6m離れた部分によって囲まれた空間の部分

(注2) 防護対象物の周囲に実際に設けられた壁の面積の合計

(注3) 防護空間の壁の面積(壁のない部分にあつては、壁があると仮定した場合における当該部分の面積)の合計

別紙 2
火災区域特性表

火災区域：2号発回均質室（2号Qマス室含む）

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン濃縮建屋 2号発回均質棟
- (2) 火災区域名：2号発回均質室（2号Qマス室含む）
- (3) 床面積（㎡）：3,358.860

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン濃縮建屋 2号発回均質棟の2号発回均質室（2号Qマス室含む）では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、潤滑油、シート及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, ℓ, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/㎡)	等価時間 (h)
ケーブル	25,632.8	666,452	198.42	0.218
潤滑油	166.6	7,332	2.18	0.002
電気・計装盤	151.0	135,900	40.46	0.045
シート	726.0	36,300	10.81	0.012
その他機器 付属品（ゴム等）	186.0	9,300	2.77	0.003
合計		855,284	254.64	0.280

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器 炎感知器 温度センサ	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器 遠隔消火設備	手動	1.0

火災区域：2号中間室（搬入室含む）

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン濃縮建屋 2号発回均質棟
- (2) 火災区域名：2号中間室（搬入室含む）
- (3) 床面積（㎡）：1,158.015

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン濃縮建屋 2号発回均質棟の2号中間室（搬入室含む）では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、潤滑油、シート及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, l, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/㎡)	等価時間 (h)
ケーブル	11,003.0	286,078	247.04	0.272
潤滑油	120.0	5,280	4.56	0.005
電気・計装盤	102.0	91,800	79.27	0.087
シート	144.0	7,200	6.22	0.007
その他機器 付属品（ゴム等）	41.0	2,050	1.77	0.002
合計		392,408	338.86	0.373

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器 炎感知器 温度センサ	第五種CO ₂ 消火器 遠隔消火設備	手動	1.0

火災区域：1号均質室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン濃縮建屋 1号発回均質棟
- (2) 火災区域名：1号均質室
- (3) 床面積 (m²)：1,784.710

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン濃縮建屋 1号発回均質棟の1号均質室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、潤滑油、シート及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質量 (kg, l, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/m ²)	等価時間 (h)
ケーブル	9,040.1	235,043	131.70	0.145
潤滑油	329.5	14,498	8.12	0.009
電気・計装盤	64.0	57,600	32.27	0.036
シート	576.0	28,800	16.14	0.018
その他機器 付属品（ゴム等）	129.0	6,450	3.61	0.004
合計		342,391	191.84	0.212

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器 炎感知器 温度センサ	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器 遠隔消火設備	手動	1.0

火災区域：2A カスケード室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン濃縮建屋 2号カスケード棟
- (2) 火災区域名：2A カスケード室
- (3) 床面積 (㎡)：1,858.744

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン濃縮建屋 2号カスケード棟の2A カスケード室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、シート及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, ℓ, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/㎡)	等価時間 (h)
ケーブル	8,159.3	212,143	114.13	0.126
潤滑油	0	0	0.00	0.000
電気・計装盤	71.0	63,900	34.38	0.038
シート	568.0	28,400	15.28	0.017
その他機器 付属品（ゴム等）	192.0	9,600	5.16	0.006
合計		314,043	168.95	0.187

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器	手動	1.0

火災区域：2B カスケード室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン濃縮建屋 2号カスケード棟
- (2) 火災区域名：2Bカスケード室
- (3) 床面積 (m²)：1,857.900

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン濃縮建屋 2号カスケード棟の2Bカスケード室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, ℓ, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/m ²)	等価時間 (h)
ケーブル	4,946.8	128,618	69.23	0.076
潤滑油	0	0	0.00	0.000
電気・計装盤	97.0	87,300	46.99	0.052
シート	0.0	0	0.00	0.000
その他機器 付属品（ゴム等）	448.0	22,400	12.06	0.013
合計		238,318	128.28	0.141

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器	手動	1.0

火災区域：2C カスケード室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン濃縮建屋 2号カスケード棟
- (2) 火災区域名：2Cカスケード室
- (3) 床面積 (㎡)：1,907.725

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン濃縮建屋 2号カスケード棟の2Cカスケード室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, l, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/㎡)	等価時間 (h)
ケーブル	5,757.9	149,705	78.47	0.086
潤滑油	0.0	0	0.00	0.000
電気・計装盤	98.0	88,200	46.23	0.051
シート	0.0	0	0.00	0.000
その他機器 付属品（ゴム等）	449.0	22,450	11.77	0.013
合計		260,355	136.47	0.150

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器	手動	1.0

火災区域：A ウラン貯蔵室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン貯蔵・廃棄物建屋 A ウラン貯蔵庫
- (2) 火災区域名：A ウラン貯蔵室
- (3) 床面積 (㎡)：6,606.550

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン貯蔵・廃棄物建屋 A ウラン貯蔵庫のA ウラン貯蔵室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、潤滑油及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, l, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/㎡)	等価時間 (h)
ケーブル	3,221.5	83,760	12.68	0.014
潤滑油	45.0	1,980	0.30	0.001
電気・計装盤	12.0	15,600	2.36	0.003
シート	0.0	0	0.00	0.000
その他機器 付属品（ゴム等）	535.0	26,750	4.05	0.005
合計		128,090	19.39	0.023

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器	手動	1.0

火災区域：B ウラン貯蔵室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン貯蔵・廃棄物建屋 B ウラン貯蔵庫
- (2) 火災区域名：B ウラン貯蔵室
- (3) 床面積 (m²)：6,821.178

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン貯蔵・廃棄物建屋 B ウラン貯蔵庫のB ウラン貯蔵室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、潤滑油及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質質量 (kg, l, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/m ²)	等価時間 (h)
ケーブル	1,144.5	29,756	4.36	0.005
潤滑油	15.0	660	0.10	0.001
電気・計装盤	4.0	6,000	0.88	0.001
シート	0.0	0	0.00	0.000
その他機器 付属品（ゴム等）	577.0	28,850	4.23	0.005
合計		65,266	9.57	0.012

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火方法	耐火時間 (h)
煙感知器	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器	手動	1.0

火災区域：C ウラン貯蔵室・B ウラン濃縮廃棄物室

1. 火災区域の説明

- (1) 建屋名称：ウラン貯蔵・廃棄物建屋 ウラン貯蔵・濃縮廃棄物庫
- (2) 火災区域名：C ウラン貯蔵室・B ウラン濃縮廃棄物室
- (3) 床面積 (m²)：6,743.700

2. 火災区域の火災シナリオの説明

ウラン貯蔵・廃棄物建屋 ウラン貯蔵・濃縮廃棄物庫のC ウラン貯蔵室・B ウラン濃縮廃棄物室では、電気・計装盤、ケーブル等が主な火災源である。火災により電気・計装盤、ケーブル、潤滑油及びその他機器付属品（ゴム等）が燃焼する火災シナリオを想定する。

3. 火災区域にある火災ハザード

可燃性物質	可燃性物質 量 (kg, l, 面又は基)	発熱量 (MJ)	火災荷重 (MJ/m ²)	等価時間 (h)
ケーブル	926.5	24,088	3.57	0.004
潤滑油	9.6	423	0.06	0.001
電気・計装盤	3.0	2,700	0.40	0.001
シート	0.0	0	0.00	0.000
その他機器 付属品（ゴム等）	650.0	32,500	4.82	0.005
合計		59,711	8.85	0.011

4. 火災区域にある防火設備

火災感知の手段	主要な消火設備	消火 方法	耐火時間 (h)
煙感知器	第三種 CO ₂ 消火設備 第五種 CO ₂ 消火器	手動	1.0

添付 3

既認可の申請内容



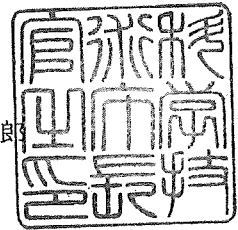
元安（核規）第376号

平成元年 8月17日

日本原燃産業株式会社

代表取締役社長 大垣 忠雄 殿

科学技術庁長官 齋藤 栄三郎



核燃料物質の加工施設に関する
設計及び工事の方法の認可について

平成元年 5月24日付け 濃発第16号 をもって申請のあった標記
の件については、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律
第16条の2第1項の規定に基づき認可する。

(火災等による損傷の防止)

第4条 加工施設が火災の影響を受けることにより加工施設の安全に著しい支障が生じるおそれがある場合は、必要に応じて消火設備及び警報設備（警報設備にあつては自動火災報知設備、漏電火災警報器その他の火災の発生を自動的に検知し、警報を発する設備に限る。）を施設しなければならない。

2 前項の消火設備及び警報設備は、その故障、損壊又は異常な作動により加工施設の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものでなければならない。

3 非常用電源設備その他の安全上重要な施設であつて、火災により損傷を受けるおそれがあるものについては、可能な限り不燃性又は難燃性の材料を使用するとともに、必要に応じて防火壁の設置その他の適切な防火措置を講じなければならない。

適合性

第4条 第1項

本工場内での火災発生時の初期消火を目的に、消防法に基づき消火設備として屋外消火栓及び消火器を設置する。なお、消火器は、建屋内に粉末（りん酸）又はハロゲン化物の消火器を設置し、特にUF₆を取扱う機器に対しては、二酸化炭素消火器を設置する。

本工場内での火災の発生を自動的に検知し、工場内各所に通報することを目的に、消防法に基づき自動火災報知設備を設置する。

第4条 第2項

本工場では、UF₆を取扱う機器に対して設置する消火設備の消火器は、二酸化炭素消火器を用い、自動火災報知設備は感知器で感知し、警報を発するのみの設備であるため、消火設備及び自動火災報知設備の異常な作動等により、加工施設の安全に著しい支障を及ぼすおそれはない。

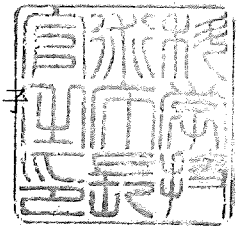
第4条 第3項

安全上重要な設備の主要材料は、ステンレス鋼、炭素鋼等不燃性又は難燃性の材料とする。

6安(核規)第665号
平成6年12月15日

日本原燃株式会社
代表取締役社長 野澤 清志 殿

科学技術庁長官 田中 眞紀子



核燃料物質の加工施設の変更に関する
設計及び工事の方法の認可について

平成6年9月30日付け濃発第36号をもって申請のあった標記の件については、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第16条の2第1項の規定に基づき認可します。

(火災等による損傷の防止)

第4条 加工施設が火災の影響を受けることにより加工施設の安全に著しい支障が生じるおそれがある場合は、必要に応じて消火設備及び警報設備（警報設備にあつては自動火災報知設備、漏電火災警報器その他の火災の発生を自動的に検知し、警報を発する設備に限る。）を施設しなければならない。

2 前項の消火設備及び警報設備は、その故障、損壊又は異常な作動により加工施設の安全に著しい支障を及ぼすおそれがないものでなければならない。

3 非常用電源設備その他の安全上重要な施設であつて、火災により損傷を受けるおそれがあるものについては、可能な限り不燃性又は難燃性の材料を使用するとともに、必要に応じて防火壁の設置その他の適切な防火措置を講じなければならない。

適合性

第4条 第1項

本工場内においては、火災の発生する可能性は極めて少ないが、万一火災が発生した場合でも、消防法に基づき設置している消火設備（屋外消火栓、消火器）により初期消火が可能であり、火災が拡大することはない。

本工場内での火災の発生を自動的に検知し、工場内各所に通報することを目的に、消防法に基づき自動火災報知設備を設置する。

第4条 第2項

本工場では、消火設備及び自動火災報知設備は消防法に基づき設置することから信頼性は高い。また、UFを取扱う機器に対して設置する消火設備は万一の異常により加工施設に著しい支障を及ぼすおそれがなく、自動火災報知設備は感知器で感知し、警報を発するのみであるため、自動火災報知設備は万一の異常により加工施設の安全に著しい支障を及ぼすおそれはない。

第4条 第3項

本工場の建物は、建築基準法の耐火建築物又は準耐火建築物とし、実用上可能な限り不燃性又は難燃性の材料を使用する。

また、消防法、建築基準法に基づき防火壁、防火扉等により防火区画を設定する。

設備の主要材料は、炭素鋼等不燃性又は難燃性の材料を使用する。

また、その他の材料（ケーブル等）においても可能な限り不燃性又は難燃性のものを使用する。